

# 軽種馬防疫協議会からの お知らせ

馬の感染症を  
防ぎましょう



## 愛馬の健康管理は 3種類の予防接種から

監視伝染病である日本脳炎・馬インフルエンザ・破傷風の予防注射を実施しましょう。

### 3種類の監視伝染病とは？

#### 馬インフルエンザ

強力な感染性と伝播力をもつA型インフルエンザウイルスによっておこる呼吸器感染症で、咳やくしゃみ等により空気感染します。わが国でも昭和46～47年にかけて大流行して約7000頭の馬が感染し、競馬開催も中止になりました。また、世界各国で毎年インフルエンザの発生が報告されています。

- 【症状】
- ・40.0℃前後の高熱
  - ・沈うつ状態、元気・食欲の低下
  - ・強い咳
  - ・鼻水
  - ・重症では肺炎を併発

#### 日本脳炎

日本脳炎ウイルスの感染によっておこる人および家畜に共通の急性伝染病で、蚊（主として「コガタアカイエカ」）の媒介によって流行します。

- 【症状】
- 重症例では一般的に次の症状を呈します。
    - ・39.5℃～40.0℃以上の高熱
    - ・頭部を下げ、日光を避けて壁などに寄りかかる沈うつ状態を示す（麻痺型）
    - ・前がきや旋回動作を繰り返す、時には狂そう状態を示す（興奮型）
  - 軽症例でも、後軀に麻痺が現れることもあります。

#### 破傷風

土壌中に生息する破傷風菌の感染によっておこります。傷口から感染し、体内で増殖して毒素を産生します。幻の名馬と呼ばれたトキノミノル号も、この病気によって世を去りました。人やその他の動物にも感染しますが、馬はこの病気に対して最も鋭敏です。

- 【症状】
- ・全身の筋肉の硬直や痙攣
  - ・呼吸困難
  - ・全身の発汗
  - ・外的刺激への過剰反応

### 予防接種を受けるには？

獣医師に相談して受けて下さい。

予防接種を受けたときは、いわゆる「馬の健康手帳」に、必ず接種した旨の証明を獣医師にしてもらって下さい。

### 獣医師へのお願い

#### 馬インフルエンザ

- 1) ワクチンは、1ccを筋肉内に接種して下さい。初年度は2ヶ月未満の間隔で2回接種し、以降は一定レベルの抗体価を保持するため、半年に1回の補強接種が推奨されます。
- 2) 予防接種は、一年を通していつでも実施できますが、春期・秋期の集団接種を心がけて下さい。

#### 日本脳炎

- 1) ワクチン製造業者の違いにより、接種量および回数が若干異なりますが、1回接種では十分な予防効果が得られないこともあります。毎年、2ヶ月未満の間隔で2回接種が推奨されます。
- 2) 日本脳炎が発生する可能性が高い時期を考慮し、接種しなければなりません。最も高い効果を保つためには、5～6月頃に接種し、遅くとも7月上旬までに接種を完了することが望まれます。

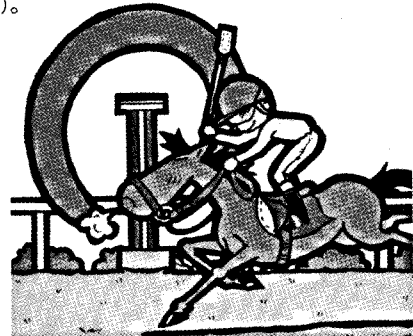
#### 破傷風

- 1) 初年度は2ヶ月未満の間隔で2回接種し、以降は年1回の補強接種が推奨されます。
- 2) 予防接種は、一年を通していつでも実施できます。

集団で定期的な予防接種を心がけましょう！

### 馬の移動について

病気の発生やまん延の恐れがある場合、移動が制限されることもあります。また、移動の際は1年以内のインフルエンザの補強接種を受けた旨の証明書の携行が必要です（軽種馬防疫協議会指示事項）。



放牧中あるいは育成中の

競走馬や乗馬なども

予防接種をしましょう